

## 留学報告書

2025年2月

立石 泰佳

UCLでの経済学 PhD 4年目前半について報告させていただきます。

### ロンドンでの引っ越し

昨年夏に一番大変だったことは、なんといってもロンドンの中で引っ越したことです。PhD 1年目から4人のシェアフラットに住んでいて、家賃も抑えられていたのですが、家が古くて冬に部屋が寒かったり、他の人が廊下を歩くだけで私の部屋が揺れたり、シャワールームの床がカビで腐っていたり、といった問題があり、引っ越しをすることに決めました。PhD で仲良くしていた友人がアメリカに1年 visiting student として滞在した後ロンドンに戻ってくる際に家を探しているのも決め手になり、2人で新しく家を見つけようという話になりました。

ロンドンの家賃は上がり続けていて、特に夏は転入者も多く、家賃は他の時期よりも高い傾向にあります。そのこと自体は覚悟して予算も高めに設定していたのですが、競争の激しさは想像以上でした。最終的に32件内見し、10件にオファーを出し、オファーが受け入れられたのは1か所だけでした。7月はほとんど毎日朝起きたら物件サイトを確認し、希望に合いそうなものがあれば不動産屋に電話して内見の予約、というのを繰り返していました。突然電話がかかってきて今から内見に来れるか、と聞かれることも何度もあり、多い時は一日に六件の内見をして細切れに時間を奪われる辛さがありました。大抵の場合は内見から数日以内にオファーを出して、大家さんがテナントを選ぶのですが、2人とも学生でイギリス国内に保証人がいないということで選ばれないことが多かったです。大学で TA として働いていて給料もある、と主張しても、PhD という身分がそれほど世間に浸透していないのか伝わりにくかったです。また、圧倒的な売り手市場だからか高圧的なエージェントも多く、普段大学にいる中では絶対に聞かないような失礼な言動や差別的な発言を浴びせられることもありました。最後はオファーが受け入れられた唯一の物件から、45分以内にデポジットを払わないと他の人に権利が移ると言われ、返答をもらっていなかった他の物件に電話をかけても返事がなかったのでデポジットを払い、家が決まりました。嬉しさよりもやっと終わった、という安堵の方が大きかったです。

本当にストレスの多い家探しでしたが、大学にも近くなり、オートロックの比較的新しくて綺麗なフラットで快適に暮らしています。また、フラットメイトになった友人と住むのも楽しく、大通りに面していてたまにうるさいという以外は特にストレスもないです。ただ、不動産屋に新居に自転車置き場があるとされたのに見つからず、一時的に外に駐輪していたら前輪を盗まれました。結局自転車置き場もなかったなので、今は家の中に自転車を持ち込んでいます。

## 初めての TA

ありがたいことに船井から 3 年間全額支援をいただいていたので、私は 4 年目にして初めて TA をすることになりました。科目は学部生 1 年目の統計学で、宿題の解説と採点、オフィスアワーを毎週開くのが仕事でした。担当の先生も学生思いの先生で常に気を配ってくれましたし、2 年前に同じ科目で TA をやった友人もいて、非常にスムーズに行うことができました。初めは学生からの反応も薄くやりにくかったのですが、何度も anyone? と聞いているうちに質問も出るようになってきました。難しい問題の時は例を挙げて丁寧に解説するようにしたところ、学生が逡巡した後に顔つきが明るくなってノートを取るのを見るのが嬉しかったです。

しかし驚いたのは最近の電卓の進化です。普通の関数電卓の域を超えて、スマホのようにすら見えるデバイスで複数の関数をインストールし、様々な機能が使えるようでした。私が解説していると、「そんな細かいステップを踏まなくても電卓ですぐに出るんですけど、使っても良いですか?」と聞かれることもあり、ジェネレーションギャップを感じました。一方で、最近の ChatGPT の進化などを鑑みて中間試験が大教室で紙と鉛筆での試験になり、私たちが紙の答案を採点することになったのが時代に逆行しているようで面白かったです。TA セッションの準備にはそれなりに時間を取られましたが、学期の最後には学生に you are the best TA と言ってもらえたのも励みになりました。もちろん至らない点も多くあったと思うので、今後 teaching evaluation が届き次第反省点を見つけて今後活かしたいと思います。

## 4 年目の研究生生活

現在行っている研究プロジェクトに関しては一進一退を繰り返しています。ただ、先学期は締め切りが多くあり、それに合わせて原稿を何本か書き上げたり、発表の機会があったりといった進捗がありました。ウガンダのプロジェクトに関しては実証分析の結果をまとめて学内で発表したのですが、理論のフレームワークを十分に考えられていないと指摘され、同級生の共著者と議論をしながら進めています。このプロジェクトに関しては日本でも発表の機会があり、多くのフィードバックをいただけたのも嬉しかったです。また、シニアの先生と共著している日本のベトナムへの FDI のプロジェクトでは、11 月にアンケート調査を行い、12 月には原稿を書き上げ、2 月にも別の原稿を書きました。もう一人のジュニアの共著者が今年 job market に出ているので、締め切りが迫る中私が 1 人で分析と執筆をする状況になってしまい、何度か徹夜をして体調を崩してしまいました。ただ、初稿を読んだ指導教官(兼・共著者)がかなり面白いと言って褒めてくれて、I'm impressed と言ってくれたのが嬉しかったです。今は指導教官と一緒に改稿作業を進めていて、いくつか学会にも出しています。夏までには形にしたいと思っています。

また、現在メインで携わっているウガンダのプロジェクトは同級生との共著なので、6年目に就活をする際の job market paper (JMP) に2人とも同じ論文を使うことはできません。どちらかが違うプロジェクトを JMP にするしかないなので、それぞれに新しいアイデアを考えて、上手くいった方が新しいアイデアを JMP に、上手くいかなければ今のプロジェクトを JMP にしようという話になりました。私は既に6回の渡航を通してウガンダが好きになっているので、今使っているウガンダのデータを活用して何かできないかと模索していました。いくつかアイデアを思いつき指導教官にもアドバイスをもらっている状態です。2月末からまた2週間ほどウガンダに行くので色々模索していきたいと思います。

## 生活面

夏休みの間は引っ越しや、ロンドンを離れる機会もありリズムが崩れがちだったのですが、先学期は久しぶりに3か月以上ロンドンに滞在していました。毎日お弁当を作って大学に持参し、ルーティーンがうまく機能していく心地よさがありました。しかし旅慣れていたのが急にロンドンから出なくなったので、12月の日本帰国の際は空港に着くまでの時間の計算を間違えて、55分前に空港に着くという失態を犯してしまいました。「8時半のフライトで空港まで1時間半だから、6時に出れば2時間前に到着する」と思い込んでいたことにカウンターに着くまで気付かず、you made it!!と言われて初めて理解して血の気が引きました。間に合ってよかったです。

研究以外では、フランス語とアラビア語の授業を取っています。アラビア語も習い始めて3年目に突入し、中級になってしまいました。語学は好きなので良いリフレッシュになっています。また、9月には普段テニスをしている友人に誘われてボルドーの近くで毎年開催される Médoc marathon に参加し、2-3km ごとにワインテイastingをしながらのフルマラソンを完走しました。お祭り騒ぎのようで楽しかったです。その後ワインなしでの自分のマラソンのタイムが気になり、11月にはロンドンでフルマラソンに参加したのですが、嵐のような雨風と寒さに加えて、公園を11周する単調なコースで辛かったです（結果は4:47:49でした）。マラソンはワインありの方が楽しそうです。最近腰痛に悩まされたり、風邪を引いてしまったりして、以前よりも頻繁に運動できていないのですが、テニスとランニングは今年も続けていきたいと思っています。



引っ越しの一番の心残りは隣家の猫（ルナ）と会えなくなることでした。



新居に引っ越して 2 日目に前輪を盗られました。これぞロンドンです。



Médoc marathon